

令和4年度の 教育活動等に対する 学校評価書

令和5年3月30日

学校法人江尻幼稚園
学校関係者評価委員会

1、幼稚園の教育目標

健やかな体と豊かな心

- ・心身ともに健康で、いきいきと遊ぶ子
- ・思いやりの気持ちをもった、優しい子
- ・自分の思いを素直に表現できる子
- ・興味や関心を持ち、自分で考える子
- ・最後までやりぬく子

2、本年度の重点目標

考える力を育てよう

- ・自ら考え、友達と思いを伝えあいながら、遊びを作り出す力を育てる

3、自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

(※評価点は A (十分達成されている) B (達成されている) C (取り組まれているが成果が十分でない) D (取り組みが不十分である) の四段階で表す。)

評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
	評価点	幼稚園としての反省と改善策	評価点	意見
保育の計画性	A	<ul style="list-style-type: none">・どんな保育を計画、実践するにあたって、常にねらいや教育課程を意識するよう心掛けた。・計画的に活動を行うことを心がけたが、想定外なことが起きたり、準備不足な点もあったりした。今後はより細かな計画を立てていく必要があると感じた。	A	<ul style="list-style-type: none">・1号認定と2号認定の違いを知りたい。 (保育時間の違いのギャップを感じさせないような配慮をしていきたい)・不適切保育の実態調査はあったのか。また、報告書はあったのか。 (不適切保育を未然に防ぐための講習を受け、職員全

保育の計画性	A	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの良い面を伸ばしていくための活動だけでなく、伸ばしたい面を見つけ成長のきっかけとなる活動の計画を立てることを心がけたい。 	A	<p>員で話し合い、報告書を提出した)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不適切保育があった場合の報告の仕方等の決め事はあるか。
保育の在り方 幼児への対応	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は保育者の対応、虐待等がニュースに取り上げられる機会が多く、改めて自分の言動が客観的に見てどうかを考えるきっかけになった。 ・「できることより少しだけ難しいこと」を準備し、環境を整えることができるようになった。子どもと一緒に目線で楽しみながら保育者として一歩先のことに目を向けられるようにしたい。 ・保育者自身が人的環境となることをしっかり意識し、接することを心がけてきた。場面にあった言葉の掛け方ができていたか、保育者の思いが強く出ていなかったかを見直していきたい。 ・子ども一人ひとりの個性、関わり方、支援の仕方について、保育者間での共有が足りなかった。子ども自身を伸ばすため、自分自身の見識を広げるためにも、話し合いの時間を確保したい。 	B	<p>(牧之原の事件を受けて、出席確認のマニュアルを作り、毎朝、担任と事務局のダブルチェックを行うようにした。苦情についてのマニュアルはあるが、虐待についての書式はなかったので、臨機応変に対応していく)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度、不適切な保育の苦情、報告はなかったのか。(4月に職員の応について苦情があった。) ・保護者アンケート「一人ひとりに適切な保育をしているか」では、88,8%がAの評価である。高評価につながっていると思われる。 ・保護者アンケート「遊具や教材は充実しているか」では、具体的な意見、希望があったのか。(遊具では、子ども同士の関わりが作れるような遊具を取り入れていきたい。教材では、要望のあった学習要素のあるものを導入した) ・午後の時間の保育について、1号児としては教育的なことを望んでいる。こども園に移行し2号児の午睡時間はあるが、有効に使って欲しい。(午後もこれまでの保育と大きな違いはない) ・看板を取り付けてあるが、表示が0歳11か月からとなっていて、乳児に重きがいつているように感じる。1号児が少なくなっているならば、3歳からの入園につながるような説明やアピールを行うべき。
教師としての資質 能力、良識、適性	A	<ul style="list-style-type: none"> ・不適切保育未然防止の研修や報道を受けて、改めて考えることが多かった。 ・受けとり方や声色によっても捉え方は変わってしまうので、どんな人が聞いてもいい声掛けができるように、日々考えながら発していくことが大切だと感じた。 	A	

<p>教師としての資質 能力、良識、適性</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「報告・連絡・相談」をすることの大切さを強く感じた。他の職員と共有・相談することは、適切な保育を行っていくためにも必要なことであるため、責任をもって保育に関わっていききたい。 	<p>A</p>	<p>(1号認定の入園が減少傾向にあるので、令和5年度は満3歳クラスを設け、年齢にあった保育を行い、満3歳の受け入れを多くしていきたい)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員が夜間勤務をすることはないか。 (職員の体制もあるので、突発的な預かり保育、時間外は設定していない) ・イベントを多くして欲しいという保護者意見もあるが、毎日の遊ぶ時間もバランスよくとってほしい。 (わんぱくクラブや、スイミング、行事等の活動日は時間の確保が難しいが、時間をうまく使って十分に遊びこめる時間を作っていきたい)
<p>保護者への対応</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・降園時や個人面談の時を活用して、保護者に園での様子をより具体的に伝えることを心がけた。 しかし、話せる機会に偏りもあったので、機会を逃さずにもっと積極的に関わっていくようにしたい。 ・保護者の不安に共感するだけでなく、的確な提案ができるようになりたい。具体的な姿を伝え、発達や今後のねらいも含めて話ができるようにしたい。 ・こども園移行の1年だったが、制度の違いを保護者に周知できていないことが多かったと感じた。1号認定児の要望に応じていけるよう、配慮が必要と感じた。 	<p>B</p>	
<p>地域の自然や社会との関わり</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度「一芸披露」のボランティアを募集した。江浄寺見学では和尚さんのお話を聞き、ダンスの講師を招いてヒップホップダンスを経験した。地域の方の仕事に触れ、新しい経験をしたことは好評だった。 ・小芝神社に散歩に出かけ、シャボン玉を見せてもらったり、七五三のお参りをしたり季節を感じられる経験が出来た。避難訓練の避難場所としても活用させてもらっているので、地域のつながりを大切にしたい。 ・来年度は、もっと園外保育に行く機会を増やしていきたい。 	<p>A</p>	

<p>教職員の研修と研究</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修は、職員同士で情報を共有する機会となったため有効な時間となった。 ・テーマによっては、これまでの保育の中で意識できていなかったと気づけるものがあった。話し合いを通して改めて考えるきっかけとなった。 ・来年度は、新卒の保育者も増えるので、日々の保育の中で生かせるテーマから話し合いを進めてみる。 ・研修にかける時間が長くなってしまふことが反省点である。話し合いの仕方を見直していきたい。 ・2月に保育を見せ合い研修を行ったが、来年度はもっと早い時期に計画に取り入れていく。 ・保育者だけでなく、違う角度（職種）からの意見も参考にして職員全体でより良い園づくりを行っていきたい。 	<p>A</p>	
------------------	----------	---	----------	--